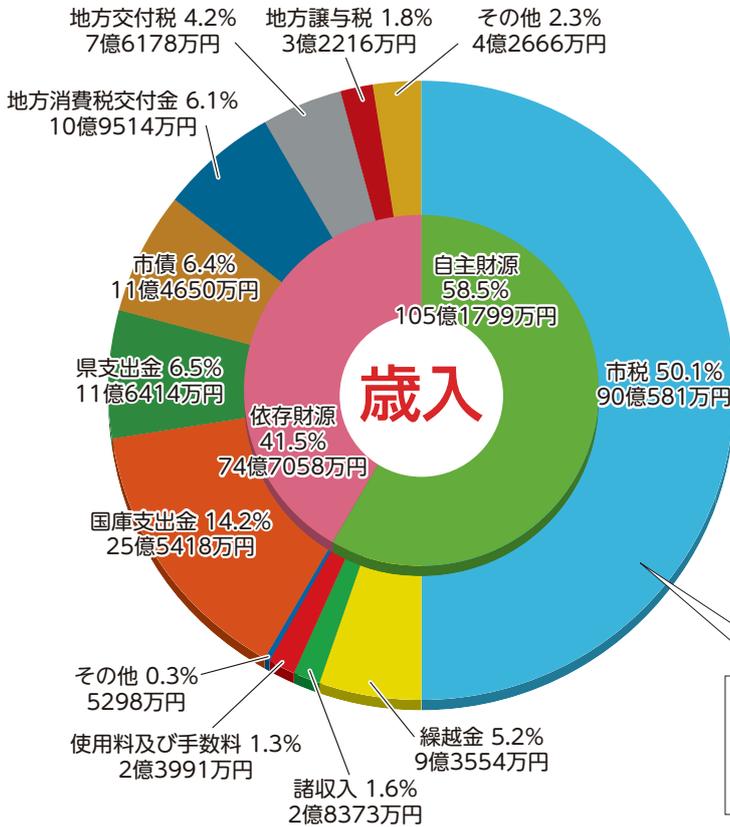


禍からの脱却

～財政構造の硬直化～

9月定例会で令和5年度決算を審議し、一般会計、特別会計ともに原案どおり認定しました。

一般会計の決算額



歳入 では、市税収入の決算額は90億581万円で、前年度比3.4%増加しました。コロナ禍からの回復が進む中、純固定資産税が3億5346万円、個人市民税が1378万円増加し、市税全体では2億9306万円の増収が確認されています。

歳入
179億8857万円

〈市税内訳〉

固定資産税	54億4297万円	市民税	31億460万円
市たばこ税	3億3181万円	軽自動車税	1億2503万円
入湯税	138万円		

決算
4億7459万円となりました。

総額は一般会計と特別会計を合わせて歳入262億4308万円、歳出257億7459万円となりました。

歳出
173億1502万円

歳出 は、173億1502万円で0.9%増加しました。主に民生費が増加し、社会保障費は81億5808万円で1.7%増加、保険事業の不足分として一般会計から9億9091万円の繰入が必要となります。生活保護などの扶助費も32億8157万円で9.5%増加しています。

